

❖ 科目名 Course Title			
中国語I-2			
❖ 担当教員 Instructor			
章 天明, 加藤 眞司			
❖ 開講学期 Semester	後期	❖ 対象学年 Year	1, 2, 3, 4
❖ 履修可能人数 Capacity	5 (対面)	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class			

❖ キーワード Key Words
❖ 授業の目的 Course Objectives
❖ 授業概要 Course Description
<p><b>【加藤】</b> 中国語 I-1 で習得した中国語の基礎を踏まえて、中国語の能力（話す（やり取り、表現）力・聞く力・読む力・書く力）の更なる向上を目指します。 日常生活の様々なシーンで必要とされる会話表現が身につくよう、繰り返し練習します。前期よりやや長い会話や複雑な語法に取り組みます。引き続き、受講者が授業に積極的に参加できるように、会話練習では学生同士でペアを組み練習を繰り返します。また、中国語を楽しく学び理解を深めるために、中国文化などについて触れながら授業を進めていきます。</p> <p><b>【章】</b> 中国語 I-1 で得た基礎の上に立ち、語彙と基本文法を引き続き学び、練習問題及びペアワークなどで繰り返し訓練します。更に多くの常用度の高い基本語彙および基本文型覚え、教科書の会話文に出てきた会話表現を中心に口慣らしをして、ナチュラルスピードの会話も取り入れながら、表現力を身に付けるようにします。</p>
❖ 到達目標 Course Goals
<p><b>【加藤】</b> 使える単語や表現を増やし、前期よりもやや複雑で長い質疑応答（自己紹介、身の回りのこと）ができるようになることを目標とします。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゆっくり話してもらえれば、聞き取れること。</li> <li>2. やや複雑な文を読んで理解できること。</li> <li>3. 少し長いやり取り（前期よりも会話が続くこと）ができること。</li> <li>4. やや複雑な中国語作文（複文）ができること。</li> </ol> <p>などを目標とします。</p> <p><b>【章】</b> 中国語の入門から基礎の完成までの内容の学習により、学びはじめの段階から実用的な中国語でコミュニケーションができるようになることを目標にしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き中国語の発音の練習、流暢に綺麗な中国語の発音ができること。</li> <li>・やや複雑な文型・さらに多くの重要な語句を理解し、活用できること。</li> <li>・より実践的な会話表現ができること。</li> </ul>
❖ 授業計画 Course Schedule
<p><b>【加藤】</b> 教科書の問題に取り組みながら、日常生活の様々なシーンで必要とされる会話表現を学習します。会話がやや長く、語法も少し複雑になりますが、使える語彙や表現が増えるよう、練習を繰り返します。また、中国語の発音についてもより正確な発音ができるよう、練習を繰り返します。主な学習項目は下記の通りです。 補語（様態・結果・方向・可能）、完了、進行形、経験、使役、持続、存現文、受身、比較、処置文、助動詞、副詞、時間詞、介詞、慣用句</p>

<p><b>【章】</b> 発音訓練を繰り返し、もっと綺麗な中国語の発音ができるように十分練習します。さらに多くの語彙、やや複雑な基本文型を学び、「会話」、「トレーニング」、「リスニング」、及び「書取りテスト」、「口頭試験」などを用いて、より実用的な会話と文章を勉強します。</p>
<p><b>❖成績評価Grading System</b></p>
<p><b>【加藤】</b> 学期末試験50%、小テスト25%、平常点（出席率・授業態度・課題）25%の総合評価。 授業回数（全15回）の1/3以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。（但し、やむを得ない事情の場合は速やかに申し出ること。）</p>
<p><b>【章】</b> 試験成績のほか、課題の完成度及び出席率、授業での積極性により総合的に評価する。</p>
<p><b>❖テキストTextbooks</b></p>
<p><b>【加藤】</b> ①『新訂キャンパス的中国語』渋谷裕子・孟 若燕(同学社、2500円＋税) ②適宜プリントを配布</p>
<p><b>【章】</b> 『中国語精選サラダ』劉郷英・嘉瀬達男・豊後宏記(朝日出版社)及びプリント</p>
<p><b>❖参考書Reading List</b></p>
<p><b>❖準備学習Homework</b></p>
<p><b>【加藤】</b> 事前学修:教科書付属のCDを聴いて、発音練習をして下さい。 事後学修:学習事項の習得度を高めるために、適宜小テスト(リスニング・中国語作文)、発音試験(1回)を行います。CDを聴いて、発音練習・リスニングの練習を行って下さい。</p>
<p><b>【章】</b> 予習:授業前には、教科書付属のCDを利用して、発音を練習してください。 復習:授業後、CDを利用して発音練習、本文の暗唱練習、および授業中配布した課題をしっかりとやってください。</p>
<p><b>❖オフィスアワーOffice Hour</b></p>
<p><b>❖連絡先 (E-mail) E-mail</b></p>
<p><b>❖質問・相談への対応方法Contact Information</b></p>
<p><b>❖履修上の注意Notes</b></p>
<p><b>❖備考Other Information</b></p>
<p><b>【章】学生へのメッセージ:</b> ・予習と復習をしっかりと、授業中は楽しく学びましょう。 ・「書読百遍、其意自現」→「読書百遍義自ら見る」教科書の本文を何回も繰り返して朗読して、暗記してください。</p>

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外的人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。